

外国人患者の受入れ状況に関するアンケート調査の結果について

1 概要

医療ツーリズムを推進する上での現状の把握及び課題等を明らかにすることを目的に、県内の病院に対して、令和4年度を対象期間とした「外国人患者の受入れ^{*}状況に関するアンケート」を実施した。

^{*}本調査において、「外国人患者の受入れ」とは、「愛知県の医療機関で受診することを目的に訪日した外国人患者に「健診・検診」や「治療」を実施すること」（いわゆる医療ツーリズム）と定義し、単に観光や仕事等を目的に訪日した外国人が突然の病気等で受診した場合や、日本に在住する外国人患者に対する診療は除く。

2 調査対象

県内 187 病院（※県内 319 病院のうち、アンケートを辞退した病院を除いた数）

3 調査期間

令和5年7月10日（月）～8月7日（月）

4 回収状況

93 病院から回答を得た。（回収率 49.7%）

5 調査結果

次ページ以降のとおり

※表中の数字は「病院数」。

また、四捨五入のため割合の合計が 100%にならない場合がある。

6 まとめ

- 県内の 5 病院（「健診・検診」、「治療」の両分野で実績があった病院を含む）が令和4年度に外国人患者の受入れの実績があった。
- 令和4年度は「中国」「ベトナム」「アメリカ」「タイ」から受入れを実施しており、受入れをしている分野は「治療」が最も多い。
- 外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「国際医療コーディネーターとの連携」が多くなっている。

(1) 病床数別にみた外国人患者受入れ状況

県内の 12 病院が既に外国人患者の受入れを「実施している」と回答し、病床数で見ると、5 病院が「500 床以上」、2 病院が「300～499 床」となっている。令和 4 年度から実施した病院は無かった。

なお、5 病院が「検討中」と回答した。

病床数区分 (床)	n	令和 4 年度 から実施	令和 3 年度以 前から実施	実施予定	検討中	未定	実施予定 はない
20～ 29	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
30～ 49	9	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	6 (66.7%)
50～ 99	16	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	6 (37.5%)	9 (56.2%)
100～149	14	0 (0.0%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (35.7%)	7 (50.0%)
150～199	10	0 (0.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	5 (50.0%)
200～299	10	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)	6 (60.0%)
300～499	14	0 (0.0%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	2 (14.3%)	6 (42.8%)	4 (28.6%)
500 以上	18	0 (0.0%)	5 (27.8%)	0 (0.0%)	0 (4.5%)	5 (27.8%)	8 (44.4%)
計	92※	0 (0.0%)	12 (13.0%)	1 (1.1%)	5 (5.4%)	29 (31.5%)	46 (50.0%)

※1 医療機関が無回答

(2) 外国人患者受入れを実施した経緯

外国人患者の受入れを実施するようになった経緯としては、**6 病院が「自院の方針として自ら開始」**と回答した。

外国人患者受入れを実施する経緯	回答数 (n=12)
外国人患者又は家族からの依頼	2 (16.7%)
自院の方針として自ら開始	6 (50.0%)
国際医療コーディネーターからの紹介	2 (16.7%)
保険会社からの紹介	0 (0.0%)
旅行会社等からの紹介	1 (8.3%)
その他	1 (8.3%)

(3) 外国人患者受入れ実績【複数回答】

令和4年度の外国人患者の受入れは、「健診・検診分野」では4病院、「治療分野」では4病院の実績があった。
 なお、両分野とも中国からの受入れが最も多かった。

《健診・検診分野》

・ 令和4年度受入れ実績のあった病院 4病院

受入れ病院数 (n=4)	20～30床 未満	30～50床 未満	50～100床 未満	100～150床 未満
	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	150～200床 未満	200～300床 未満	300～500床 未満	500床 以上
	1(25.0%)	0(0.0%)	1(25.0%)	2(50.0%)

・ 居住国別受入れ人数

(人)

受入れ人数 (n=29)	中国	ベトナム	インドネシア	アメリカ	タイ	その他
	16	7	0	0	5	1

・ 一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）

受入れ病院数 (n=4)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
	4(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

《治療分野》

・ 令和4年度受入れ実績のあった病院 4病院

受入れ病院数 (n=4)	20～30床 未満	30～50床 未満	50～100床 未満	100～150床 未満
	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	150～200床 未満	200～300床 未満	300～500床 未満	500床 以上
	1(25.0%)	0(0.0%)	1(25.0%)	2(50.0%)

・ 居住国別受入れ人数

(人)

受入れ人数 (n=97)	中国	ベトナム	インドネシア	アメリカ	その他
	78	13	0	2	4

・ 一人当たりの延べ入院・通院日数(平均)

受入れ病院数 (n=3)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
	1(25.0%)	2(50.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

(4) 外国人患者の受入れをしている（する予定の）診療分野・診療科【複数回答】

外国人患者の受入れをしている診療分野・診療科としては、「健診・検診」、
「概ね全診療・治療分野で受入」と回答した病院は同程度であった。

受入れを実施している（する予定）の診療分野	(n=13)
健診・検診	6(46.1%)
診療分野を特定せず概ね全分野で受入れる	5(38.5%)
その他	2(15.4%)

具体的な疾患・治療内容等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔外科での手術及び入院 ・ 陽子線治療

(5) 外国人患者受入れの際の価格設定

外国人患者を受け入れるにあたり、**50.0%の病院が「診療報酬単価と同じ又はそれ以下」の価格に抑えている。**また、「診療報酬単価の3倍以上」に、**25.0%の病院が設定している。**

n	診療報酬単価					
	同じ又はそれ以下	1.1倍以上 1.5倍未満	1.5倍以上 2倍未満	2倍以上 2.5倍未満	2.5倍以上 3倍未満	3倍以上
12	5(50.0%)	0(0.0%)	1(8.3%)	2(16.7%)	0(0.0%)	3(25.0%)

(6) 外国人患者を受入れる際の院内手続きについて【複数回答】

外国人患者受入れて医療行為を行うにあたり、手続きとして通常時と比べて追加で実施していることとして、「クレジットカードの確認や事前登録」、「前金、デポジットの請求」を実施しているとの回答が多かったが、「特別な手続きは実施していない」と回答した病院が最も多かった。

外国人患者を受入れる際の院内手続きの実施について	実施していること (n=15)
個人毎に契約を締結している	1 (6.7%)
誓約書を記載してもらっている	1 (6.7%)
クレジットカードの確認や事前登録	2 (13.3%)
前金、デポジットの請求	3 (20.0%)
特になし	5 (33.3%)
その他	3 (20.0%)

<その他の具体的な内容>

- ・国際医療コーディネーターを利用

(7) 医療ツーリズムで訪日した外国人患者が検査や診療、入院するにあたり、トラブル防止のために取り組んでいること。【複数回答】

検査や診療、入院するにあたり、トラブル防止のために取り組んでいることとして、「医療費の概算を算出して事前に提示」という回答が最も多く、次いで、「治療の内容・範囲を事前に説明」、「診療・入院中のルールや注意事項を事前に説明」が多かった。

医療ツーリズムで訪日した外国人患者が検査や診療、入院するにあたり、トラブル防止のために取り組んでいること	実施していること (n=35)
医療費の概算を算出して事前に提示	8 (22.9%)
選定療養費について事前に説明	5 (14.3%)
治療の内容・範囲を事前に説明	7 (20.0%)
宗教・慣習上の要望や配慮すべき点について事前に確認	6 (17.1%)
診療・入院中のルールや注意事項を事前に説明	8 (22.9%)
その他	1 (2.9%)

<その他の具体的な内容>

- ・医療ツーリズム事業者と契約

(8) 入院生活を送る上で困らないように実施していること【複数回答】

外国人患者が入院生活を送る上で困らないように取り組んでいることとして、「院内表示や入院パンフレットの多言語対応」という回答が最も多く次いで「困ったことがある際、まず誰に声をかければよいかをあらかじめ伝える」、「母国との連絡手段の用意や通信環境の整備」が多かった。

入院生活を送る上で困らないように実施していること	実施していること (n=16)
困ったことがある際、まず誰に声をかければよいかをあらかじめ伝える	3(18.7%)
日本人とは別に専用病床の確保	1(6.3%)
気分転換のため、母国語で楽しめるコンテンツを用意	1(6.3%)
院内表示や入院パンフレットの多言語対応	6(37.5%)
母国との連絡手段の用意や通信環境の整備	3(18.7%)
その他	2(12.5%)

<その他の具体的な内容>

- ・ 日中は通訳が必ずいるようにしている
- ・ 国際医療コーディネーターを利用

(9) 外国人患者受入れに向けた体制整備【複数回答】

外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「国際医療コーディネーターとの連携」、が多くなっている。

外国人患者受入れに向けた体制整備	実施していること/ 実施しようとして いること (n=41)
外国人患者受入窓口（国際診療科等の専門部署・スタッフ）の設置	2(4.9%)
多言語に対応した院内表示	5(12.2%)
医療通訳を院内のスタッフとして配置	2(4.9%)
医療通訳を院外から必要に応じて手配	6(14.6%)
多言語に対応した医療従事者（医師・看護師など）の配置	4(9.8%)
外国人患者受入れに対応した診療施設、入院施設の設置	3(7.3%)
契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応	6(14.6%)
情報発信・プロモーション活動	3(7.3%)
国際医療コーディネーターとの連携	6(14.6%)
国際医療コーディネーター以外の機関（国内外の医療機関、自治体、旅行会社など）との連携	3(7.3%)
その他（パンフレットの英語版、中国語版の対応）	1(2.4%)

(10) 外国人患者受入れにあたってのサービスの実施主体

外国人患者の受入れにあたって、「患者情報の入手」、「必要書類の翻訳」、「医療通訳・医療結果翻訳」、「支払手続き」は、病院自ら又は外部委託により約7割が実施している。

業務名	概要	n	提供				未提供	
			自院	外部委託		(小計)		
				有償	無償			
事前	患者情報の入手	医療情報、患者情報の入手	13	3 (23.1%)	5 (38.5%)	3 (23.1%)	11 (84.6%)	2 (15.4%)
	同意書の締結	治療内容や治療費変更の可能性など、同意書を作成し、患者と締結	13	3 (23.1%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	7 (53.8%)	6 (46.2%)
	ビザの手配	ビザ取得に必要な書類の入手・作成	13	0 (0.0%)	5 (38.5%)	0 (0.0%)	5 (38.5%)	8 (61.5%)
	必要書類の翻訳	入退院関係の書類、検査・治療の同意書などの必要書類の翻訳	13	3 (23.1%)	5 (38.5%)	0 (0.0%)	8 (61.5%)	5 (38.5%)
	来日搬送の手配	日本までの移動や空港到着後から病院までの搬送などの手配	13	1 (7.7%)	5 (38.5%)	0 (0.0%)	6 (46.2%)	7 (53.8%)
	航空券・宿泊施設の予約	航空券や国内宿泊施設の予約	13	0 (0.0%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	10 (76.9%)
滞在	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	13	2 (15.4%)	4 (30.8%)	0 (0.0%)	6 (46.2%)	7 (53.8%)
	医療通訳・医療結果翻訳	医療通訳が必要な場面(事前説明、受付、診察、検査等)における医療通訳	13	3 (23.1%)	6 (46.2%)	0 (0.0%)	9 (69.2%)	4 (30.8%)
	院内での特別食の提供	入院中の患者への宗教・信条(ベジタリアンやハラール食など)に合わせた特別食の提供	13	6 (46.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (46.2%)	7 (53.8%)
	支払い手続き	費用の支払い手続き	13	5 (38.5%)	4 (30.8%)	0 (0.0%)	9 (69.2%)	4 (30.8%)
	生活面・観光での支援	日本滞在中の病院外での支援(通院同行含む)	13	0 (0.0%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	10 (76.9%)
帰国	アフターケアの支援・再診の調整	帰国後のアフターケアの支援及び再診時の日程調整等の支援	13	2 (15.4%)	5 (38.5%)	1 (7.7%)	8 (61.5%)	5 (38.5%)

〈有償の場合、当該サービスの提供によって追加で発生した費用の取り扱い〉

- ・医療費に上乗せ
- ・診療費とは別に実費で請求している
- ・基本的には当院と契約しているエージェントに全て依頼しています。

(11) 海外在住の外国人患者の受入れを断った経験

回答のあった 86 病院のうち 11 病院が海外在住の外国人患者の受入れを「断った経験がある」と回答した。

断った理由としては、「診察できない内容だったため」が多くなっている。

海外在住の外国人患者の受入れを断った経験	(n=86)
なし (全て受入)	7 (8.1%)
ある	11 (12.8%)
受入れを希望されたことがない	68 (79.1%)

〈断った理由〉

- ・ 日程が合わなかったため
- ・ 当院の病院機能に合っていなかったため (慢性期の病状の受入れであったため)
- ・ 希望される治療を行えない
- ・ 今以上の治療は難しく手の施しようがない
- ・ 希望される治療の適用ではないと判断されたため
- ・ 対応診療科が無かったため

(12) 県に実施を望む施策

県に実施を望む施策としては、**34 病院が「現場職員を対象とした研修」、27 病院が「外国人患者の受入れに積極的な医療機関について情報発信」と**回答した。

県に実施を望む施策	回答数 (n=116)
海外の展覧会へ県内医療機関とともに出展してPR	7(6.0%)
外国人観光客等にPRするためのパンフレットの作成	12(10.3%)
医療機関の院長等を対象としたセミナー	22(19.0%)
現場職員を対象とした研修	34(29.3%)
外国人患者の受入れに積極的な県内医療機関について情報発信	27(23.3%)
その他	14(12.0%)

<その他の具体例>

- ・多言語対応のための窓口開設・人材派遣・ツールの提供、患者トラブルへの対応窓口の開設、未収金発生時の保証制度の確立
- ・受入環境整備のためのガイドラインの策定、公費での通訳者派遣
- ・帰国困難となった際の支援
- ・外国人患者の受け入れ環境を整備するための助成金の交付
- ・観光コンベンション局とのコラボレーションによる医療×観光をしてPRする活動

(13) 外国人患者の受入れのため、海外へ情報発信したい技術・機器又はサービス等【自由記載】

- ・MRI<3.0テスラ>、CT、血管撮影装置、X-TV装置、マンモグラフィー
(アジア(主に中国))

- 婦人科内視鏡治療（子宮鏡下手術、vNOTES等の低侵襲手術、ダヴィンチ内視鏡手術）
- 内視鏡検査
- 開院～ダヴィンチ手術件数は年々増加の傾向となっている
 - 2020年度 158件 • 2021年度 253件 • 2022年度 268件
- 手術支援ロボット、PET-CT（中国、ベトナム）
- 情報発信したい技術・機器又はサービス等：低侵襲ロボット支援手術（肺癌、前立腺癌、腎癌）、PET、FFRCT、経皮的冠動脈形成術（PCI）、乳房再建手術（乳癌）、腹腔鏡下手術（胆石症、鼠径ヘルニア、胃癌、大腸癌、子宮癌、卵巣癌）、胸腔鏡手術（VATS・肺癌、気胸）、神経内視鏡手術（脳室内腫瘍）、手外科、人工関節手術（膝、股）、放射線治療（高エネX線、IMRT、VMAT、定位放射線治療）、がん温熱療法（ハイパーサーミア）、NIPT（出生前診断）、周術期口腔機能管理、カルテコ
ターゲット想定国：米国、中国
- 眼科：多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術、緑内障インプラント治療
同法人内 PET、同法人内 ハイパーサーミア
形成外科：皮膚レーザー治療（アザ・シミ・血管腫）
泌尿器科：ダヴィンチ手術（前立腺がん・腎臓がん）・腹腔鏡手術
ターゲット アジア圏（中国など）、インド
- 不育症の診断治療、着床前診断
- 泌尿器科：1. ロボット支援手術（前立腺がんに対する前立腺全摘除術、腎がんに対する腎部分切除術、膀胱がんに対する膀胱全摘除術、水腎症に対する腎盂形成術）を施行している。
2. 腎移植術を行っており、海外からの患者治療の経験もある。
3. 小児の先天性泌尿器科疾患に対する手術も行っており、海外の尿道下裂や膀胱尿管逆流の患児の治療経験がある。また包茎に対する割礼は、日本国内に居住の多くの国の子供を治療している。
- 外科：胃癌大腸癌における低侵襲腹腔鏡下手術、鼠径ヘルニアにける鏡視下手術、腹部大動脈瘤におけるステントグラフトなど
心臓血管外科：小児、とくに新生児、乳児の先天性心疾患手術の良好な成績。日本のきめ細やかで、高度な医療のなかにおいて、さらにその中でも良好な成績をおさめている当院の小児循環器医療を、とくにアジアの国々に対しアピールできればと思います。

眼科：眼科：眼内視鏡を利用した硝子体手術で多数の治療実績がある。特に、通常の眼科顕微鏡のみでは治療不可能であった眼球破裂、角膜混濁を伴った網膜剥離、難治性網膜剥離、加齢黄斑変性に続発した網膜下血腫あるいは脈絡膜腫瘍において良好な治療実績がある。

消化器内科：胃がん、大腸がんに対する内視鏡的治療（ESD、EMR、ポリペクトミー）ウイルス肝炎に対する評価、ならびに薬物治療
肝がんに対する穿刺焼灼治療（RFA）、カテーテル治療

皮膚科：乾癬に対する集学的治療（分子標的薬、ナローバンドUVB治療器）、アトピー性皮膚炎、びまん性脱毛症に対する分子標的薬治療
膠原病、関節リウマチに対する分子標的薬治療
悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検を含む手術療法および分子標的薬治療

歯科口腔外科：口腔がん・口唇口蓋裂など

- がんの治療においては外科治療、放射線治療、内視鏡治療、化学療法が主な治療法として行われていますが、それぞれメリット、デメリットがあります。がん診療に関わる医師、看護師、薬剤師らが、臓器の特異性を超えた横断的診療の一環として、「キャンサーボード」というミーティングを定期的で開催し、患者さんの状態にマッチした診療計画を提供できるような体制をとっております。

当院では、2009年に日本で初めて da Vinci S Surgical System (Intuitive Surgical, Inc.) を導入いたしました。現在では、最新型の da Vinci Xi を含む合計4台が常時稼働しており、消化器外科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器外科の領域で、全国でも有数の手術成績を誇っております。さらにサージカルトレーニングセンターや先端外科治療開発共同研究講座を学園内に設置し、安全な先端外科治療を普及するための手術トレーニングや日本初の実用型内視鏡下手術用ロボット「hinotori」の研究開発にも取り組み臨床使用を開始いたしました

- <情報発信>
集束超音波治療(FUS)、循環器疾患診断・治療、整形外科、認知症診断、PET健診
<ターゲット国>
中国及びアジア圏
- リハビリテーションスキル

(14) 海外在住の外国人患者の受入れ全般についての意見・要望等【自由記載】

【課題・要望】

- ・ 将来に亘って受入れ予定がなく、来年度以降はアンケートの送付を希望しない。
- ・ 外国人患者の受入れの予定はございません。
- ・ 当院での受入れは、今後も検討はしないと思います。次年度以降のアンケートを希望しません。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟のため、要望に応えることができません。よろしく申し上げます。
- ・ 受入れ予定がないため、来年度以降はアンケートの送付を希望しません。よろしく願いいたします。
- ・ 将来に亘って受け入れ予定はありません。
- ・ 通訳のサポート、手続のサポート
- ・ 当院規模の病院では、外国人患者の受入は今後も課題が多いとの認識です。当院は中部国際空港直近であること、アフターコロナにおいて患者数が回復しない中新たに集患できる分野であることから、経営強化の観点からも今後検討していきたいと考えている。国際医療コーディネート業者を利用したいと考えるが、全体事業者が少ない中で安心して選定できるよう県から情報提供いただきたい。
- ・ 当院は精神科が主科となっており、内科療養のため外国人患者の受け入れは今後も予定しておりません。来年度以降は、アンケートの送付は不要です。
- ・ 診療費の未払いが課題
- ・ 現段階において受け入れる予定はないです
- ・ 現在、医療ツーリズムでの外国人患者の受入予定はございません。
- ・ 今後の受入予定をしませんので、来年度以降アンケートを希望いたしません。
- ・ 国、地域による言葉の問題への対策
- ・ 受診歴の有る患者様に対し、遠隔での診察・処方・服薬指導・お薬の送付などを緩和

【課題・要望】

- ・ 当院では現在のところ、医療ツーリズムによる外国人の受け入れについては予定しておりません。このため、来年度以降のアンケートの送付を希望いたしません。将来的に、当院の方針に変更があった場合には、改めて相談させていただきます。
- ・ 病院の体制を整えば将来的には外国人患者の受入も積極的に行って来たいと考えています。
- ・ 日本の医療保険が使用できない人に対し、各病院で医療費に関して事務的な手間が少なくなるよう、県として一元的に受付、手続き等の書類の準備、各種言語での説明同意書等の準備および翻訳の無償化を推進していただきたい。国柄、国民性の違いはあるかと思いますが、安全上、あるいは治療遂行上、病院で定められたルール、ガイドラインを順守していただくことは万国共通にお願いしたいと思います。
- ・ 将来に亘って医療ツーリズムの外国人の受け入れは無いです。
昨年度も記載していますが、一般的な受診患者で外国人支援において難渋することもあり、急性期医療機関間の情報共有、通訳に関する情報など県単位で発信をしていただけると助かります。
- ・ 当院では現時点で医療ツーリズム目的の外国人患者の受入れは検討していません。
- ・ 藤田医科大学病院では、海外在住の外国人患者の受入れにつきまして今後も積極的に行っていく方針です。
コロナ過において渡航が難しい状況下でも、遠隔でセカンドオピニオンなどの対応を行い、緊急性がある外国人患者につきましては医療ビザ取得後の受入れも行ってきました。まずは希望がございましたら医師と受入れ調整を行う体制はできておりますのでご相談いただければと思います。
- ・ 当院では、対応できない疾患もあるので、その場合は、公的医療機関で積極的に受入をして欲しい
- ・ 受入れに関して補助金等の助成があると体制が整備ができます
- ・ 受入予定なし
- ・ 医療ツーリズムの受入れを予定していないため、来年度以降はアンケートの送付を希望しません。
- ・ 今後も受入予定無く、来年度以降はアンケートの送付を希望しない